

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫



◆◆◆ No.0509 ◆◆◆

18/11/14

【「日柄面」を大外し、今年の相場見通しを反省】

気が付けば、今年も残り1ヵ月半。そろそろ今年の相場を回顧しても不思議はない時期に入ってきた。ちなみに、今年の年初、筆者は日柄的な側面から「ドルは前半高、後半安」、価格的には「中立予想。狭ければ105-120円、広ければ100-125円」一など予想していたが、残念ながら日柄面は大外し。また、価格面は当たったといえは当たっているが、筆者の予想を上回る狭いレンジ取引に終始している。決して謙遜ではなく、的中したイメージはまったくない。ともかく、読者の方には非常申し訳なく思う。誠に申し訳ありませんでした。

さて、そうした状況を踏まえ、今回の当レターでは、何故予想が外れたのか日柄面を中心とした反省をするとともに、非常にザックリした来年の見通しについてレポートしてみたい。

◎来年は「1-3月」にも短期波動の底値示現も

日柄面な側面から、「ドルは前半高、後半安」と指摘した背景には、3つの波動分析の存在があった。年明けではなく、8月に一部改訂したものだが、同月15日付の当レターに掲載した短期から長期波動についてのサイクルを、まずは再掲載しておく。

長期波動(66ヵ月)	中期波動(20-25ヵ月)	短期波動(10-15ヵ月)
・11/10/31 75.57	・11/10/31 75.57	・11/10/31 75.57
↓	↓	・12/09/13 77.13(11ヵ月)
	・13/06/13 9375(19ヵ月)	左同 (9ヵ月)
	↓	・14/10/15 105.20(16ヵ月)
	・15/08/24 116.15(26ヵ月)	左同 (10ヵ月)
	↓	・16/06/24 98.65(10ヵ月)
・16/06/24 98.65(56ヵ月)	・16/06/24 98.65(10ヵ月)	・17/09/08 107.33(13ヵ月)
↓	↓	・18/03/26 104.57(7ヵ月)
2021年ごろ?	・18/03/26 104.57(20ヵ月)*暫定値 もしくは2018年夏ごろ?	*暫定値

このうち、長期波動はともかくとして、問題となるのは中期波動と短期波動。言い訳をすれば、今回のサイクルはやや特異なもので、イレギュラーだった点を否めない。それが見通しを誤らせたことは間違いないのだが、とは言え、もう少し早くフレキシブルに修正がかけられてもよかったのではないかと、思っている。そこが最大の反省点だ。

そんな反省点を真摯に踏まえ、改めて次のドルのボトムを考えると、中期波動では「来年の年末近くになって」、短期波動では「来年の1-3月」にボトムをつける公算が大きい気がしている。なお、短期波動は「1-3月」にボトムを付けたのち、ドルの上昇を経たあと「年末近くになって」再びボトムをつける一展開も否定出来ないだろう。すなわち、来年はサイクル的に見た場合、レベルはさておき2回のボトムが到来することになるかもしれない。つまりは、年間を通してやや荒っぽい変動をたどる可能性もありそうだ。

一方、レベル的なメドはと言うと、正直予想しにくいのだが「来年1-3月」がメインシナリオである短期波動のボトムは105-110円、そのうち「年末近くになって」到来する中期波動のボトムは100-105円を見込んでいる。

対するドルの上値メドは、115-120円を想定しており、とするなら現段階で予想される来年の年間レンジはザックリ100-120円か。今年のドル/円が歴史的な小変動、年間レンジが1ケタ台にとどまりそうなのかな、来年は本当にその2倍も動くことになるのだろうか？もちろん、市場関係のひとりとして期待はしているものの、いま一度別の要素も含めたうえで精査、結果を改めてレポートしてみたい。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

